

## いわての復興教育

今年度の『復興教育担当者研修会』『復興教育講演会』は、夏季休業中や2学期始業後すぐに発生している台風被害等、近年の自然災害に“そなえる”目的で、平成29年7月3日（月）に東山地域交流センターを会場に行いました。

午前の復興教育担当者研修会は、講義と協議を通して“実践的な防災教育を中核とした「いわての復興教育」」について考える機会としました。午後の講演会は、講義と講演を通して主に「学校の防災力の向上」について考えを深める機会としました。

## 復興教育担当者研修会



管内の小中学校から1名参加の悉皆研修として行いました。今年度は、各校に事前に『復興教育副読本活用実践例』の提出をお願いし、協議の場で紹介いただくとともに、全96校の実践を共有しました。

### 講義 「復興・防災教育を中核とした復興教育の充実」

<研修者の感想から>

- ・復興教育副読本の年間活用計画について、活用時期についてはもう一度見直しが必要だと思った。担当として進めていきたい。
- ・次期学習指導要領の中の防災についての記述や通知等、国の動向を全教職員に周知していくべきと実感しました。
- ・災害時の避難方法や学校が避難所となった場合などの体制や対応などについて、早急に検討しなければならない。
- ・子ども達に、考える力、思いやる心、進んで参加・行動する態度をしっかりと身につけさせられる復興教育の実現のために力を尽くしたい。

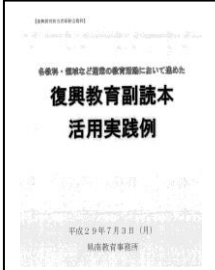
復興教育副読本年間活用計画に①学年、②時期、③関連する教育活動、④副読本のどこ、の4項目を明記いただき、さらに実効性を高めてくださるようお願いしました。ちなみに、4項目を明記している管内の学校の割合は次のとおりです。

H27	H28	H29 目標
63%	81%	90%

### 協議 「各教科・領域など通常の教育活動において進める復興・防災教育」

<研修者の感想から>

- ・実践例を自校の職員に紹介し、教科・領域の中で、より効果的な復興教育の実践が行われるよう働きかけていきたい。
- ・関連する教科に付箋を貼ったり、月1回全校で副読本を活用する日を設定したり、強化月間を設けたりと、復興教育を推進する手立てを学んだ。本校にも取り入れたい。
- ・ある学校の「事前指導」「学習活動」「復興教育副読本の活用」が1つにパッケージ化されているところを早速まねたい。



## 復興教育講演会

### 講義 「防災意識を高める」

講師：岩手県立大学総合政策学部  
教授 伊藤英之氏

★火山防災について、管内の活火山である栗駒山(須川岳)を例示いただきながら、児童生徒への継続した防災及び減災教育の必要性を学びました。また、県立大学による防災授業支援の情報も提供いただきました。

<参会者の感想から>

- ・「どう災害をやり過ごせるか」という言葉が心に残った。避難訓練等で“どうしていくか”を子どもたちに考えさせる必要を感じた。
- ・「災害に対する具体的なイメージを持たせること」と「自然現象を正しく理解して楽しむことが大切である」というお話に共感した。
- ・テーマを設け、持続的・継続的に学びを積み上げ、地域を守る子ども達に育てる中学校支援の実践紹介がとても参考になった。

### 講演 「いわての復興教育の推進～東日本震災を振り返り～」



講師：一関市立東山小学校  
廣長秀一 校長  
★震災当時、釜石市立白山小学校校長として陣頭指揮にあられたときの避難所運営の状況などを詳しく話していただきました。

<参会者の感想から>

- ・学校の役割を改めて考える機会になりました。想定外をどこまで考えられるかが危機管理として大切なことと学びました。
- ・震災への意識が薄れている自分を感じました。自分にできる範囲で伝えていかなければと思いました。
- ・アンテナを高くして、どんな場面でも子どもと自分の身を守る意識をもって働きたいと思いました。大変勉強になりました。
- ・「絶対安全・安心ということはない」「人は助け合って生きている」そして、「次世代につなげていく」これらを聞いて、復興教育の重要性を再認識しました。子ども達につなげていきます。

【お知らせ】「避難所運営ゲーム」(HUG)の演習セットの貸出を行っています。教職員研修等で活用する際には、所管の教育委員会指導主事までご連絡ください。『いわての復興教育だより いきる かわる そなえる』第19号より